

広報

中部の^{もり}森林



私の森語り木のめくもりを感じる中津川市ひと・まちテラス!
中津川市ひと・まちテラス所長 安藤 嘉之

写真：タマゴタケ(中信署管内)

各地からの便り

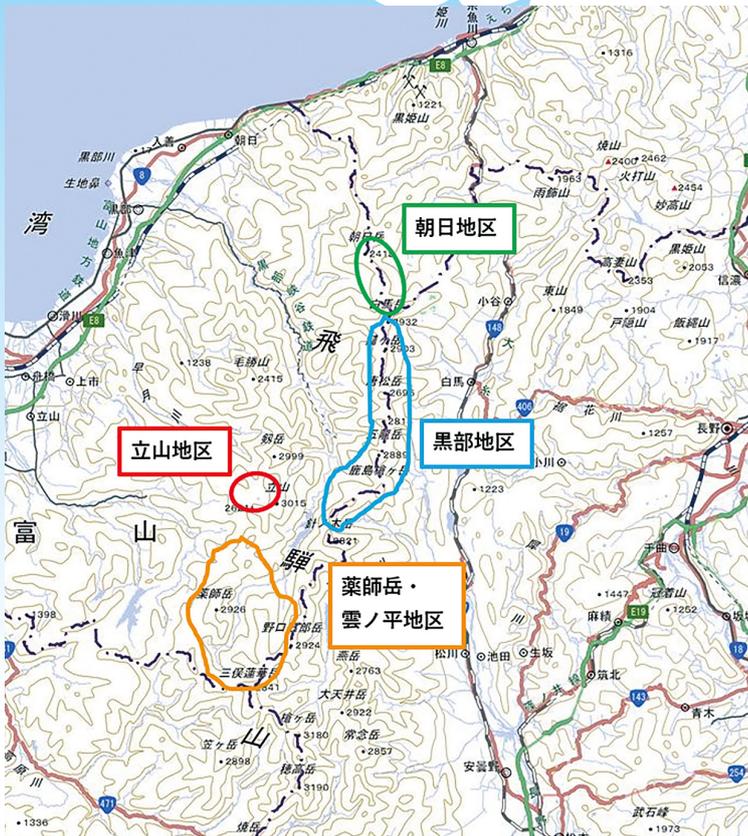
- ・グリーンパトロール活動 (ほか)
- シリーズ
- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



2024/No.246



林野庁中部森林管理局



出典：国土地理院ウェブサイト（電子国土Web）
<https://maps.gsi.go.jp/#10/36.602299/137.744522/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>
 上記地図上にパトロールの地区を示した

パトロールを実施した4地区

高山植物等保護パトロール活動
 ～半世紀を超えて～

【富山森林管理署】

昭和四十七年から始まり、今年で五十二年目を迎えた高山植物等保護パトロール（通称・グリーンパトロール）を実施しました。

本パトロールは、地元自治体や山小屋関係者等で構成される国有林野保護管理協議会が実施し、当

署は事務局を担当しています。

活動の場所は四地区に分かれ、立山地区（室堂平周辺）では七月十八日から八月十六日までの約一ヶ月間、薬師岳・雲ノ平地区（五色ヶ原・太郎平・雲ノ平・鷲羽岳・野口五郎岳）、黒部地区（針ノ木岳・爺ヶ岳・五竜岳・唐松岳・白馬岳）及び朝日地区（朝日岳・雪倉岳・白馬岳）では七月十八日から八月九日までの約二十



ゴミ拾いをするパトロール員

日間にわたり活動を行いました（上図を参照）。

本年度は、ライチョウや高山植物に興味を持ち、豊かな自然環境を守りたいという十三名を雇用し、高山植物等の保護を呼びかける啓発活動や山岳美化活動を行いました。

パトロールの最終日には各地区で解団式を行い、パトロール員か



白馬鐘ヶ岳と白馬岳

ら活動報告が行われました。インバウンドの増加による言語やマナーの違い、ストックキャップ未装着等の問題が挙げられる一方、登山客から「いつも綺麗にしてくれてありがとう」と感謝の言葉を掛けられ嬉しく感じたこと、様々な報告がされました。

今後も、この素晴らしい環境を後世に残すために本パトロールを継続してまいります。



松本山雅FC後援会が環境美化活動に参加

『乗鞍ライチョウルートの日
イベント二〇二四』による
清掃活動

【飛騨森林管理署】

八月一日に、乗鞍岳^{のりくらだけ}の統一的なプロモーションを検討するプロジェクトチーム「乗鞍岳Beyond Border Project Team」が主催し、『乗鞍ライチョウルートの日イベント二〇二四』が、岐阜県高山市や長野県松本市、地元サッカ―

チーム松本山雅FC後援会等の協力により乗鞍岳^{たなみだいら}畳平で開催されました。

乗鞍岳は、長野・岐阜両県にまたがる中部山岳国立公園南部に位置し、長野県側の「乗鞍エコーライン」と、岐阜県側の「乗鞍スカイライン」の二つのマイカー規制道路が山頂でつながり、双方から山岳景観や自然を楽しむことができます。

「乗鞍ライチョウルート」は、乗鞍岳への誇りと未来への想いをライチョウに込め、両県をつなぐ観光ルートの愛称として、令和三年八月一日に発表されました。

当日のイベントでは、自然観察教室やライチョウ探索、関係者による森林パトロールが行われ、登山者等へ「乗鞍岳の自然」「ライチョウ保護」等についてPR活動が行われました。また、地元サッカーチーム松本山雅FC後援会による環境美化活動も行われ、当署職員も参加しました。

継続的に行われている美化活動、グリーン・サポート・スタッフ等による森林保護活動やマナー



細かいゴミも見逃さない参加者

の啓発などにより、大きなゴミや悪質なゴミの投棄はありませんでした。しかし、風が吹いて飛散したアメの包み紙やパンフレットなどがあり、環境美化活動の参加者は細かいゴミにも目を光らせていました。

乗鞍岳周辺は、登山やライチョウ観察、高山植物などの自然観察やサイクリング等で年間約三十九万人の観光客が訪れます。多くの人が訪れる中で、美しい自然が維

〈乗鞍スカイラインの通行が再開しました〉

令和4年に道路が崩落して通行止めとなっていた岐阜県側の乗鞍スカイラインは、仮設道路が完成し、8月20日から片側の交互通行が再開しました。今シーズンの通行期間は10月31日までの予定とされています。気象状況により終了が早まる場合がありますので、現地へ向かう際には、最新の情報をご確認ください。

持され、あわせて、ライチョウの保護が継続されているのは、地域や関係者等が一体となった森林・自然保護活動、自然景観や動植物を保護するためのマイカー規制、長年にわたる美化活動や啓発活動等の取り組みによるものです。

標高三、〇二六メートルの剣ヶ峰登山や北アルプス北部・八ヶ岳・中央アルプスの眺望、ライチョウ観察、高山植物など自然を満喫できる乗鞍岳へぜひお越しください。

猛暑のなか高瀬溪谷フェスティバルが開催されました

【中信森林管理署】

七月二十日、長野県大町市のおおまち町ダムで、「森と湖に親しむ旬間実行委員会」の主催により、今年で三十五回目を迎える「高瀬溪谷フェスティバル二〇二四」が開催され、当署から木工クラフトのブースを出展しました。

当日は、梅雨明け直後の、焼けるような日差しの中、親子を中心に百名近くの参加があり、轟音を



木工クラフトブースの様子



作品作りに没頭する参加者

たてて高瀬川に流れ込むダムの放水を横目に、参加者も職員も大汗をかきながら、木工クラフトにチャレンジしました。参加者は、最初に大小のコースターを選び、どんぐりやヒノキの球果、クルミの殻、帽子のような御椀型のクヌギの殻斗、ビーズなどを自由に並べ、コースターの上に独創的な世界を作り上げていきます。

当署のブースは、最後まで人が途切れることなく、「夏休みの自由工作の宿題ができた」と喜ぶ子や、終了時間ギリギリまで取り組んで、「最初にこのブースに来れば良かった！」と悔しがるとともに、大盛況のうちに終了しました。

令和六年度 教職員森林・林業学習会の開催

【木曾森林ふれあい推進センター】

八月六日、長野県木祖村小木曾の国宥林の水木沢天然林において、木曾郡内小中学校の教職員五名を対象とした森林・林業学習会を開催しました。

本学習会は、森林・林業の役割と森林環境教育の認識を高め、学校教育の場に活かしていただくことを目的として、平成十四年度から長野県との共催により実施しています。

今年度は木曾川源流の一つである水木沢天然林の散策とネイチャーゲーム体験、木曾町にある旧帝室林野局木曾支局庁舎（通称「御料館」）の見学を行いました。

水木沢では「原始の森コース」を巡り、天を突く大サワラ、ブナと木曾五木の混交林等、木曾独自の豊かな森林を「フィールドビンゴ」を行いながら散策しました。散策後は、視覚以外の感覚で自然を体感するネイチャーゲーム「目かくしイモ虫」を行い、樹木の皮や土

壤の感覚など普段は意識していない「自然への気づき」を体感してもらいました。

昭和二年に建築された御料館は、アール・デコ様式の意匠が見どころで、クラシカルな雰囲気味わいながら、貴重な林野行政資料等の展示スペースを見学しました。

参加者からは「理科の授業の導入としてフィールドビンゴは取り入れられそう」等の感想がありました。

教職員のみなさまに、学校教育の場で活かしていただけるよう来年度以降も学習会を開催してまいります。



目かくしで樹を触る参加者

なかつがわ山の日サンデー
～中津川の山・木を体験～

【東濃森林管理署】

八月四日、東濃森林管理署前広場をメイン会場とした「なかつがわ山の日サンデー」が開催されました。

この催しは、「中津川の山で育った木に触れ、木を知り、木を使える人になろう」をテーマに中津川市、恵那農林事務所、当署が主催となり、市内外の森林・林業に携



ミニ椅子作りに参加する親子

わる団体等の協力を得て行っている行事で、今年で七回目を迎えました。

当日は、数十年に一度と言われる酷暑の中にもかかわらず、多くの方が朝から列をなし、メイン会場十一ブース、サテライト会場四ブースで様々な体験に参加しました。

当署は、メイン会場の一ブースで、毎年多くの方が訪れる「ミニ椅子作り」、サテライト会場の一ブースで、七月に完成した「初代大ヒノキ歩道」を使ったツアーを行いました。

ミニ椅子作りは、整理券があったという間になくなる程の盛況ぶりです、対応にあたった職員は、開会直後から閉会間際まで子供たちへのお手伝いでフル稼働でした。

参加者からは「昨年体験した時に楽しくて、今年も参加しました」という嬉しいお言葉もあり、職員のサポートにも一層力が入りましました。

初代大ヒノキツアーには、中津川市内はもとより、遠方では富山から参加された方もありました。



初代大ヒノキツアーの参加者

参加者からは「大変なコースだったけど、素晴らしいものが見られて良かった」「次の企画はないの？」「普段は何気なく見ている山も、それぞれに見方を変えれば新しい発見がある」といった感想が寄せられました。

今回は、東濃森林管理署の横に完成した「ぎふ木遊館サテライト」のオープニングイベントに合わせ、例年より一週間早めての開催でしたが、大いに盛り上がりましました。

これからも多くの方々へ、森林・林業の魅力を、地元の皆様と共に伝えてまいります。



写真右
建物の中央には「シンボルツリー」があり、滑り台などで遊ぶことができます。



写真左
建物内には、「サテライト施設 第1号」と記載された額が掲げられています。

岐阜県では、森林に誇りと愛着を持ち、地域の将来を担っていく人を育てていくことを目指すための考え方を「ぎふ木育ビジョン」としてまとめ、「ぎふ木育」を体験できる場所の整備を進めました。令和2年、岐阜市内に「ぎふ木遊館」が開館し、より多くの県民が体験できるようサテライト施設の設置を進め、その第1号として「道の駅花街道付知」の一部を改修して「なかつがわ 森の木遊館」が完成しました(10ページでも紹介)。